

「町田市未来都市研究 2050」

町田市未来シナリオへの対応策を考えるワークショップを開催 いよいよ、最終提言へ

町田市未来づくり研究所と東京都市大学総合研究所未来都市研究機構（以下、未来都市研究機構）は共同で、2050年の未来の町田市について、テクノロジーの進化による都市や市民への影響を踏まえ、シナリオプランニングという新たな手法を用いた共同研究「町田市未来都市研究 2050」に取り組んでいます。取り組みの進捗状況についてご報告します。

有識者ヒヤリングで、第1回ワークショップで出た対応策アイデアを強化し、第2回、第3回のワークショップを経て、最終提言にむけた検討を進めています。

1. 町田市未来シナリオ 2050 への対応策を考える

1-1 対応策アイデアリストへの有識者ヒヤリング

今年度第1回目のワークショップを2021年7月19日に実施し、関連する担当部局に在籍する町田市職員が参加しました。町田市未来シナリオ 2050 を念頭に置いたとき、行政組織として何をすべきなのか、あるいは、望ましくない状況を回避するために何を準備すべきなのかを抽出し、整理した対応策アイデアリストをまとめました。

対応策アイデアリストは、第1回ワークショップで出た対応策アイデアを、①子育て・福祉、②教育・生涯学習、③産業振興、④スポーツ・文化振興、⑤市民協働、⑥環境、⑦都市づくり、⑧防災・防災安全、⑨行政経営・マネジメントの各領域に分類してまとめています。

この対応策アイデアリストをベースに、4名の有識者にヒヤリングを行いました。有識者には、以下のような内容を尋ね、対応策のブラッシュアップをかけています。

- 対応策アイデアリスト全体についてどのような印象・感想を持ったか？
- 対応策アイデアリストのうち、興味深いと思ったものとして何があったか？
- さらに補強するとすればどのような論点やアイデアがあるか？
- 各有識者の観点で論点として足りないと思われるもの、新規に追加すべき対応策アイデアは何か？

各有識者からのコメントは、対応策アイデアリストに反映され、リストが強化されました。また、各有識者からは2050年の未来シナリオに対して、町田市としてはどうしたい(どのようにありたい)のかという、町田市の目的(パーパス)や役割を明確にして、議論すべきとの提言がありました。

1-2 第2回ワークショップ(町田市のパーパスを考え、対応策アイデアを精査する)

有識者からのコメントを受けて、町田市未来シナリオ 2050 のように外部環境が変化した際に、町田市は町田市としてはどうしたい(どのようにありたい)のかという、町田市の目的(パーパス)や役割を明確にする今年度第2回目のワークショップを2021年10月27日に実施しました。関連する担当部局に在籍する町田市の職員が参加しています。

町田市未来シナリオにおいて、KDFの2軸がポジティブに展開する「すべてがデジタルベースになる」かつ「住む場所にかかわらず自由に行政サービスを選択できる」という未来を描いた「登録者1000万世界都市 Machida」を念頭に置いた場合に、町田市としてはどうしたい(どのようにありたい)のかを検討しました。町田市役所だけではなく、Machida登録者(市内外)・企業(市内外)など Machida に関するステークホルダーとの間で価値を共創する意味でも重要となる「共通目的」を考え、「共通目的」を実現するステークホルダーごとの目的と役割を考えました。

また、ワークショップでは、その共通目的を実現するために対応策アイデアを「コスト」と「インパクト」の観点から分類を行いました。

1-3 第3回ワークショップ(町田市の対応策ロードマップを考える)

第2回ワークショップを踏まえて、今年度最後の第3回ワークショップを2021年11月17日に実施しました。第3回ワークショップは、前回のワークショップで検討した「共通目的」を実現する対応策アイデアをブラッシュアップし、いつまでに何をやるかのマネジメント指標づくりと、2050年までのロードマップの検討を行うものです。

「共通目的」がKGI(重要目標達成指標)だとすると、その下部概念として、どのような状況が達成されると「共通目標」に近づくのかというKPI(重要業績評価指標)を明確にしようと議論しました。

「共通目的」は、2050年に実現したい未来ですが、それまでにどのようなタイミングで、どのような対応策を行うのかを時間軸上にプロットし、ロードマップを作成しました。

2. 町田市未来シナリオ 2050 への対応策を取りまとめ、最終提言へ

今年度3回のワークショップを実施し、町田市未来シナリオ 2050 への対応策を検討してきました。ワークショップの結果を踏まえて、町田市未来づくり研究所と未来都市研究機構は、具体詳細な対応策を取りまとめ、最終提言を行っていきます。

最終提言は、町田市未来づくり研究所と未来都市研究機構のウェブサイトで公開するほか、報告会を開催し公表する予定です。

◆「町田市未来都市研究 2050」の全体概要◆

人口減少、人口構造の変化に伴い、生活関連サービス(小売・飲食・娯楽・医療機関等)の縮小、税収減による行政サービスの水準低下、地域コミュニティの機能低下等、様々な問

題が懸念されています。

一方で、平成に入りテクノロジーの変化が加速し、この10年程度の間、スマートフォンが特に普及し、SNSを通じて世界中の様々な行動や価値観が可視化され、生活者の意識、行動に影響を与えています。今後より一層、テクノロジーの進化が、社会、生活者に影響を与えると考えられることから、今後起こりうる様々な問題の解決の糸口となるよう、テクノロジーを中心とした長期的な将来都市像の姿を描き、必要と考えられる都市戦略を検討することを目的としています。

従来、自治体ではフォアキャスティング的手法（過去のデータや実績から導かれるトレンドに基づいて将来を予測し、必要な対応策を考える方法）により、将来を予測し対応してきましたが、現在のような不確実な社会・経済情勢においては、将来を確実に予測することは難しくなっています。

そこで、町田市未来づくり研究所と未来都市研究機構では新たな手法として、不確実性を前提とし、複数の未来を想定したシナリオを作成し、シナリオに応じた都市戦略を描き出すシナリオプランニングの手法により、テクノロジーの進化を見据えた、2050年の町田市の都市像に関する研究を行っています。

前回までの進捗（2020/9/26 公開、2021/3/9 公開、2021/7/30 公開）については下記 URL をご覧ください。

●2020年9月

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/2050kenkyu.files/20200925release.pdf>

●2021年3月

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/katudounaiyou/2050kyoudoukenkyu/2050kenkyu.files/202103release.pdf>

●2021年7月

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/katudounaiyou/2050kyoudoukenkyu/2021sinchoku.files/20210730sinchoku.pdf>

◆町田市全般に関する問い合わせ先：

町田市未来づくり研究所（政策経営部企画政策課内）

担当：本吉仁志、野田健太郎

e-mail:m2ri[@]city.machida.tokyo.jp * [@]を@に変換ください。

◆研究内容に関する問い合わせ先：

東京都市大学 総合研究所 未来都市研究機構

担当：葉村真樹（機構長・総合研究所教授）、北見幸一（都市生活学部准教授）

e-mail: miraitoshi[@]tcu.ac.jp * [@]を@に変換ください。